

平成20年度 国立赤城青少年交流の家企画事業
「試みて実験して行動科学で学ぶAAP（あかぎアドベンチャープログラム）」
～ラボラトリー方式の体験学習を中心にして～

< 実 施 報 告 書 >

国立赤城青少年交流の家

期 日 ・ 場 所 : 平成20年8月5日(火)～平成20年8月8日(金)
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山27

事 業 名 : 「試みて実験して行動科学で学ぶAAP（あかぎアドベンチャープログラム）」
～ラボラトリー方式の体験学習を中心にして～

趣 旨 : ラボラトリー方式の体験学習を基盤にした体験活動プログラムや当施設で培った体験活動プログラムの体験と講義等を通して、体験学習による指導方法の習得や人間関係力育成の指導力の向上を図るとともに、教師間及び教師と施設のネットワークをつくる。

事業の特色 : ラボラトリー方式の体験学習を中心にして当施設で培ってきたAAP（あかぎアドベンチャープログラム）の手法を使った体験学習で、学校生活の1年間のいろいろな場面を想定し、そのときどきに応じた体験学習の実習を体験すると共に、体験学習法の理論を学ぶ。先生が体験することにより、児童・生徒の目線に立って体験学習法を検証してもらう。また、先生がファシリテーターとしての接し方を学ぶことにより、児童・生徒が能動的に動くようになる。先生の生徒へのかかわり方を変えることによって、児童・生徒が変わり、児童・生徒が変わることによって学校が変わるということを構想している。そして、この事業に参加し体験学習法を学んだ先生が、自分の職場やその地域の体験学習法を広める核になってもらい、広域的に体験学習法を広めていってもらつつもりである。

募 集 人 員 : 教員 24名

参 加 者 : 23名

参加者地域 : 群馬県 : 5名、埼玉県 : 6名、千葉県 : 1名、東京都 : 6名、神奈川県 : 4名、
静岡県 : 1名

企画のポイント : まずは、企画指導専門職が講師をすることが重要なポイントである。なぜなら、この企画は、単にラボラトリー方式の体験学習を体験してもらって終わりではなく、それぞれの参加者が、自分の勤務している学校や地域に戻って、この体験学習法を広め、学校を元気にしていくことが目的である。また、当施設と教員、当施設と学校がつながり、今後の教育活動において連携を深めていくことも併せて目的としている。そして、そのパイプ役が企画指導専門職である。担当企画指導専門職は、昨年よりラボラトリー方式の体験学習を指導できるように研修を積んできた。学校や総合教育センターなどをお願いし、出前授業や出前講座をやらせてもらい、ファシリテーション力をあげるとともに、ラボラトリー方式の体験学習を広めてきた。

広報のポイント : まず、「ラボラトリー方式の体験学習」の知名度が低いため、どんなものかを学校の教員に知らせることに主眼を置いた。そのために、前年度の12月から教育事務所をはじめ、教育委員会、教育長会、校長会等において説明をした。また、説明だけではその有効性がわからないので、学校現場での出前

授業や職員研修，総合教育センターでの出前講座，当施設での支援事業での実習活動等を行い，知名度のアップに努めた。その後，当施設利用の各学校への広報，各教育委員会宛に管轄している小中学校への案内の送付，直接訪問，電話での勧誘やHP上での広報等を行った。

プログラム展開：＜8月5日（火） 1日目＞

13:00 受付
 13:45 セッション1・アイスプレイキング
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 15:40 セッション2
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 17:30 夕食・入浴
 19:30 セッション3
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 21:00 フリータイム
 23:00 消灯

＜8月6日（水） 2日目＞

7:10 朝のつどい・朝食
 9:30 セッション4
 【AP（アドベンチャープログラム）の理解】
 12:30 昼食・休憩
 13:30 セッション5
 【AP（アドベンチャープログラム）の理解】
 17:00 タベのつどい・夕食
 19:30 セッション6
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 21:00 フリータイム
 23:00 消灯

＜8月7日（木） 3日目＞

7:10 朝のつどい・朝食
 9:30 セッション7
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 11:20 セッション8
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 12:30 昼食・休憩
 14:00 セッション9
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 16:00 セッション10
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 17:40 入浴・情報交換会（夕食）
 21:10 フリータイム
 23:00 消灯

＜8月8日（金） 4日目＞

7:10 朝のつどい・朝食
 9:30 セッション11
 【ラボラトリー方式の体験学習の理解】
 11:30 閉講式
 12:00 解散

成 果： 本事業の研修成果としては，参加者自らの気づきがあったり，実習を体験したことをきっかけにその効果を知り，ラボラトリー方式の体験学習を使える指導者になり，自分の勤務する学校や地域に普及させようとする動きが出てくるのが期待される。また，企画指導専門職が講師となって事業を行うために，教育事務所や教育委員会等に行き，広報したり，出前授業や出前講座をした結果，以前に比べ，学校教育関係機関につながりが出てきたように思う。さらに，当施設と連携し，人間関係づくりを進める学校も出てきた。

今後の課題： まず，いかに参加者を集めるか。人間関係づくりを行うために，3泊4日の事業で夏季休業中に行うという条件があったので，早めに広報する必要がある。教員は7月初旬に職員会議で夏季休業中の動静表を出すように提案がなされるので，5月～6月初旬にはチラシが届いていないとならない。2点目は，いかに実習後にモヤモヤ感を持たせないようにするか。今回は，配布した進め方を書いた資料の中に，配当時間を書いてしまったので，それに縛られてしまった感があったのが反省点。3点目は企画指導専門職のファシリテーション力のアップである。どのようにしてファシリテーション力をアップさせる場を確保するか。



実習「タワービルディング」



実習
「一方通行、双方通行のコミュニケーション」